



2014-15
第24号

RI会長テーマ ロータリーに輝きを クラブ会長テーマ 奉仕を見つめ 奉仕を楽しむ

第2226回 例会

日 時 平成27年3月18日
会 場 例会場
司 会 SAA 山崎委員長
開会点鐘 岡本(正)会長
斉 唱 ロータリーソング「奉仕の理想」

お客様の紹介 岡本(正)会長
会長報告 岡本(正)会長

●米山奨学生・カウンセラーオリエンテーションの開催

日時 4月9日(木)18時
 場所 ハイアットリージェンシー東京
 出席 佐伯和美カウンセラー

●東京西ローターアクト創立45周年記念式典ご案内

日時 4月26日(日)12時30分
 会場 国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール
 登録料 8千円 申込みは4/5まで

●東京米山友愛ロータリークラブ創立5周年記念式典のご案内

日時 5月30日(土)17時30分
 会場 ホテルニューオータニ
 登録料 1万円 申込みは4/30まで

幹事報告 遠藤(常)幹事

●今後の予定

委員長報告

●小川社会奉仕委員長

3/15 クリーン多摩川には大勢の方にご出席いただき、ありがとうございました。また4月に行われる「さくらフェスティバル」にご協力をお願いいたします。

ニコニコBOX 長嶋親睦活動委員

●岡本(正)会長 本日は、カンボジア教育支援事業の

報告をします。途中睡魔に襲われた方は、目を開けてゆっくりお休みください。

●**遠藤(常)幹事** 本日は会長のカンボジア体験談の卓話ということで(実は私も同じ体験をしているのですが)愉しみにしています。

●**吉野会員** 先週3月11日駅前 白十字にて情報委員会による夜間移動例会にて情報交歓会を開催し1年未満入会の会員の歓迎会も兼ねて実施いたしました所、多くの会員の皆様に出席いただき盛大に行われる事が出来ました。会員の皆様に感謝申し上げます。

●**小川会員・内山会員・木島会員** 本日の卓話、会長のカンボジアの話、楽しみに拝聴させていただきます。頑張ってください。

●**山崎会員** カンボジアでの表彰式、お疲れ様でした。短時間のご旅行と伺っています。珍道中のお話し期待しています。

●**石塚会員** 早いもので44回目の結婚記念日月にあたり、記念品をいただき有り難うございます。

●**喜連紘子会員** 本日の岡本会長の卓話、楽しみにしておりました。車中から4人乗りのバイクを撮ろうと右往左往していらっしゃったお姿を思い出します。あの熱意で本日の卓話、頑張ってください。

●**長嶋会員** 国立ロータリークラブに入会させて頂いて、今日で丁度1年になりました。これからも宜しくお願い申し上げます。

ニコニコBOX 21,000円 累計1,000,000円

出席報告 関出席奨励委員長

3月18日 在籍48名中 出席36名
 前々回(3月4日)の出席率 97.60%

閉会点鐘 岡本(正)会長



RI第2750地区 多摩中グループ
東京国立ロータリークラブ

会長: 岡本 正伸 幹事: 遠藤 常臣

例会日: 毎週水曜日 例会場: 谷保天満宮社務所2階 東京都国立市谷保5209 TEL: 042-576-5123
 事務所: 東京都国立市谷保5234-1 TEL: 042-575-0770 FAX: 042-572-8666
 E-MAIL: kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp WEB: http://kunitachi-rc.com/
 会報委員: 千葉 伸也・佐伯 和美・竹巻 三千子

カンボジア教師育成支援
プロジェクト 報告岡本正伸
会長

講師紹介

喜連(元)プログラム委員

国際奉仕委員会の事業に、今回は岡本会長・遠藤幹事・喜連紘子国際奉仕委員長の3人で行かれました。きょうは詳しくご報告お願いいたします。

「カンボジア教師育成支援プロジェクト」について

今回のプロジェクトは地区内19クラブの合同事業で、2010年から継続的に行っており、毎年参加クラブが増えているとのこと。幹事クラブは持回りで、昨年は渋谷RC、今年は世田谷RCが幹事クラブとなって実施した。幹事クラブは、カンボジア教師育成支援プロジェクトの現地橋渡し役の公益財団法人CIESF（シーセフ）との連絡・日程調整等を行い、参加クラブサポートを担当する。

CIESF（シーセフ）は、非営利の国際的民間教育支援団体で、基礎教育の質の向上や、高度な人材育成をととして国の発展を支援する団体であり、カンボジアの教育行政機関より委託を受け、カンボジアの基礎教育の向上のための支援をしている公益財団である。副理事長が元カンボジア全権大使の篠原勝弘さんで、カンボジア政府とのパイプ役となっている。

カンボジア プノンペンへ

今回の教育機材贈呈式には、5クラブ17名が参加した。羽田を2月6日0時5分発JALに搭乗、タイのバンコク空港を経由し約8時間でカンボジアのプノンペンへ到着した。空港を出ると、シーセフのスタッフの増子さんと現地スタッフのイアン・ナリーさんが出迎えてくれた。2日間の行程の間、この2人の現地スタッフと松倉さんの3名が我々のサポートをしてくれた。また、最終日には日本語ガイドによる半日ほどの市内観光の手配もしてくれ、大変お世話になった。ガイドのピセット君は、来年カンボジアに進出する日本の衣料品メーカーでの就職が決まっているとのこと。シーセフが手配してくれたマイクロバスに乗り、ホテルにチェックイン後プノンペンRCの例会へ出席。プノンペン市内のメイン道路は比較的整

↓プノンペン市内の道路 車・オートバイ・トゥクトゥク



↑プノンペンRC例会 パナー交換 →

備されていたが、交通量の約8割はオートバイ、残りがトゥクトゥク。突然逆走するオートバイや、歩道を当然のように走るオートバイ、3人乗りを見たときは驚いたが、4人乗りや5人乗りを見るに至っては、ただ感心するのみである。信号も少ないため、突然曲がってくる車、一台が曲がると他のオートバイや車も後に続いて曲がってくる、このような道路事情で滞在中事故を一度も見なかったことに関心をしてしまった。

プノンペンRC例会へ出席

例会場は「KANJI」という日本料理のお店の2階。登録料は無く、食事はお店のメニューから各自注文し、各自精算するというものである。カンボジアには4つのRCがあり、プノンペンには、プノンペンRCとプノンペンシティRCの2つがあるが、実際に活動をしているのはプノンペンRCだけとのこと。今回のプロジェクトは同クラブとロータリー財団のGGを利用する予定であったところ、同クラブの申請が間に合わず、今回はGGを利用せずに事業を実施した。次回GG申請の打合せも含めての表敬訪問である。例会は点鐘・会長挨拶・ビジターの自己紹介と続き、当日プノンペンRCに支援を求めるため例会場を訪れていた方の活動内容についてスライドを含めた解説があった。約1時間の例会が終了し、バナーの交換・記念撮影をして会場を後にした。海外の例会出席は初めてであったが、日本の例会とは異なり意外と簡略的でフランクな例会であった。

日本語学校 訪問

その後、シーセフが支援しているという、日本語学校を訪問した。我々が到着した時には、全生徒で花道を作り、拍手と元気な「こんにちは」の出迎えに感動しながら、学校内へ案内された。在籍生徒は約200名で、全員が二十歳前後の若者である。午前・午後・夜間の3部制のクラスとなっているそうである。以前は日本語を学ぶ若者が多くいたそうであるが、日本語を習得しても就職先がなく、日本語を学ぶ学生が随分少なくなったとの事である。ただ、最近では、日本語を学ぶ若者が少しずつ増えてきているようである。カンボジアへの日本企業の進



CIESF（シーセフ：非営利の国際的民間教育支援団体）が

支援している日本語学校訪問 生徒さん達

出はまだ、本格化してはいないものの、日本語を勉強した若者への企業からの勧誘が増えているとの事である。生徒達と対面して、我々の自己紹介、生徒からの質疑応答があり、日本大使館主催のカラオケ大会に出るといふ生徒3名が日本の歌を披露し、大変上手な歌声に一同感動の拍手であった。40分程の交流会であったが、日本とカンボジアがこれからも友好な関係を保てるのではないかと感じた。

トゥール・スレン虐殺博物館

翌2日目は、今回のカンボジア訪問の最大の目的である教育資材贈呈式である。贈呈式へ向かう前にトゥール・スレン虐殺博物館を訪れ、ポルポト政権下のカンボジアを理解することにより、今回の教育支援事業の必要性を認識することができた。ポルポトは、知識は人々の間に格差をもたらすという毛沢東思想のもと原始共産主義を遂行し、国の指導者以外の知識人層を「反革命分子」として虐殺した。当時の教師の4分の3が殺害され、200万人ともいわれる罪なき人達が殺害された。医師や政府高官等知識人、文化人を捉えるため、密告制度を導入し、友人が友人を密告し、親が子供を、子供が親を密告し、兄弟・夫婦構わず密告するようになった。捉えた者を収用するため、国内の高校の校舎を利用し、収用所は全国で約240カ所作られ、一度収用された者は生きて収用所を出ることは出来ないとされていた。解放後トゥール・スレン収用所では8名の生存が確認され、生存者の一人が当時の状況を現在に伝えるため、敷地内で自伝を販売している姿があった。現在はトゥール・スレンの収用所だけが当時の記憶を留めるため博物館として保存され、その他の収用所は再度高校の校舎に戻っている。ポルポトは当初、知識人を特定し収用していたが、最後はいわれなき理由で多くの人々が収容所へ送られ虐殺されたという。その結果、ポルポト政権から解放されたカンボジアの国民の約85%が14歳以下であったため、カンボジアでは基礎知識を習得する教育が行えなくなり、現在でも教育の基礎が出来ていない教師が学校教育を行っているのが現状である。

教師育成支援PJ 教育機材贈呈式

博物館を後にし、式典会場である教員養成学校へと向かった。今回の教育資材の贈呈先は、小学校教員養成校であるが、学校の敷地内には中学校教員養成校も併設されている。到着後は式典に先立ちRCの支援が、教員養成にどのように有効に活用され役立っているか報告を受けた。この事業で日本から派遣した教師2名の報告と、現地小学校の校長2名から教育機材がどのように活用されているかを具体的に機材を用いて説明を受けた。カンボジアは、ポルポト政権時代に殆どの教師が処刑されたため、17年を経過した現在でも基礎教育が大変遅れているのでRCの支援には大変感謝しているとの事であった。

その後、教育機材の贈呈式が執り行われた。教員養成校の学生320人を前にRC一行は来賓として壇上に。来賓席には、プノンペン市の教育局長と、急な閣議により欠席の教育大臣に代わり大臣補佐官が列席した。来賓の挨拶が一通り終了したところで、教育機材の贈呈と感謝状贈呈が行われ、約2時間のセレモニーが終了した。

『教師育成支援事業は、カンボジアの教師を育てるため、教員養成校へ日本の現役を引退した教師を派遣するとともに、教育機材を提供し、基礎教育のできる教師を育成する事業である。』



教育機材贈呈式の会場



感謝状をいただきました



日本から派遣の教師より報告を受けている様子

ヘンエン先生との授業風景



写真1：先生の卵たち・・・2015年

総勢320人



写真2：先生の卵たち・・・2012年

総勢180人



第13単元 熱による液体の体積変化を調べる実験

昨年までの教具 今年の教具



← ↑
昨年度の授業の様子
報告書より抜粋

プノンペン市内

最終日は、ワット・プノン、センター街、トンレサップ川の川下りの市内観光を半日楽しんだ。寺院へ着くと、数十羽のツバメが鳥かごに入れられている光景が目に入った。ツバメを購入して逃がすことにより、その人の罪悪が消滅するらしい。幼い子供が1羽1ドルで商売していた。寺院に入ろうとすると、入口にいた子供が足を叩くので、土足厳禁の場所に入ってしまったかと思っただが、子供達は下足番の仕事で手間賃を稼いでいるようである。そのような子供達を目にすると、教育の大切さ、貧富の格差を実感せずにはいられなかった。

トンレサップ川は2キロほど下流でメコン川と合流していて、約1時間の乗船でした。川の対岸では劣悪な環境のなかベトナム人が船上生活をしている様子が伺えた。川一つ隔てただけで、大きく生活環境が異なるのを感じた。最終日の観光で、貧富の格差を叫ぶ日本に違和感を覚え、下船後プノンペン空港へ向かい帰路についた。



↑寺院の入口で下足番の仕事をしている子供



↑トゥール・スレン虐殺博物館内部

最後に

今回の現地訪問で、RCの奉仕が単に資金援助だけではなく、何故支援が必要なのか、支援した事業がどのように役立っているのかを、実際に確認することができ、C. KフォアンRI会長が提唱する、本当に必要としている地域へ光を当てる事の大切を学ぶ事ができた3日間であったと思う。

第58回グリーン多摩川 2015年3月15日(日)

